

OUR PLEASURE JOURNEY TEN KEY LESSONS

2023年1月、[プラン・インターナショナル](#)は「[プレジャー・プリンシプルス\(快楽の原則\)](#)」を支持し、性に関する健康や教育の中で「快楽」を大切にするアプローチを取り入れることを決めました。この資料では、その取り組みをどう進めたか、そしてそこから得られた学びを紹介しています。



Until we are all equal

the
pleasure
project.

♥「Embracing Pleasure Project(快楽を受容するプロジェクト)」とは?

Embracing Pleasure Projectは、ボリビア・フィリピン・ジンバブエにおいて実施され、プラン・インターナショナルが、異なる文脈において性と生殖に関する健康と権利(SRHR)のプログラムおよびアドボカシーに、より多くの前向きで快楽を重視したアプローチをどのように統合できるかを探るものであった。

The Pleasure Projectの支援を受け、プラン・インターナショナルは、ワークショップ・ユース主導の調査・創造的な教材を通じて、快楽を重視した性の健康および包括的性教育(CSE)のアプローチを発展させた。

このプロジェクトは、性の喜び・ウェルビーイング(心身の健やかさ)・自己決定に関するユースの声を高めることを目的としており、法的または政策的制限のある状況におけるサービスや教育へのアクセスを扱っている。

[詳細はこちら](#)

これは素晴らしい旅であった。ユース主導の調査手法により、情熱と献身がもたらされた。通訳を用い、時差を越えて作業する中でも、人びとは互いを理解し、成果を祝い、学び合うことができた。Embracing Pleasureに関わったすべての方々に感謝を伝えたい。それはまさに喜びであった。

Embracing Pleasureに関わった全ての方に感謝申し上げます。誠に素晴らしかった。

「エビデンスが示していることは明らかである。セックス・ポジティブなアプローチを取り入れたSRHRの介入は、コンドーム使用やその他の性の健康成果に大きな影響を与えます。しかし、プラン・インターナショナルのように、異なる文脈で思春期のユースと取り組む組織が、セックス・ポジティブかつ喜びを含むアプローチを現実にもどのように適用できるかは、あまり知られていません。本プロジェクトを通じて、我々はその方法を学びました」

Damien Queally、プラン・インターナショナル プログラム
担当最高責任者

「The Pleasure Projectとの協力により、我々は喜びの原則を実行に移し、エビデンスに基づいた、喜びを取り入れたSRHRのプログラムおよびアドボカシー活動を展開することができました」

Kathleen Sherwin、プラン・インターナショナル 戦略・
関与最高責任者

調査結果

この調査からは、ユースおよびその周囲の人びとが性の喜びやウェルビーイングをどのように認識しているか、またジェンダー的役割や社会的な期待がこれらの認識にどう影響しているかについての知見が得られた。以下にいくつかの例を挙げる。

快楽の認識

「快楽」という概念は、**すべての国で扱うのが難しいもの**であった。特にユース女性は、喜びに関する教育の機会が限られている場合が多かった。ボリビアでは、喜びはユース女性には一般的に与えられない**特権**のように見られており、彼女たちはユース男性より多くの家事責任を担っていた。フィリピンでは、同性愛者の男性に関する議論の中で性の喜びに関する話題が比較的開かれていたが、他の地域、特に女性にとっては、**社会的に受け入れられているものとは大きくかけ離れており、想像することすら困難**であり、暴力の経験が影響していることもあった。

安全と同意をめぐる

3カ国すべてのユース女性にとって、**重大な安全上の懸念**があった。これは避妊への制限、親・男性・メディアからの圧力などによりさらに複雑化していた。プラン・インターナショナルの**過去の調査と同様に、同意は重要であると感じられていたが、明確に説明することが難しいとされた**。ボリビアでは、現実的なシナリオを使って同意とは何かを判断できたユースは少なかった。ボリビアとジンバブエでは、ユース男性は性行為への当然の権利意識を持つ傾向があり、ユース女性は男性との性行為を強いられるような圧力を感じていた。

セルフラブ

「自分を愛する」という快楽の原則は、ユースの調査員や参加者、特にユース女性の間で**強く共感を呼んだ**。これは**自立や自尊心**と結びついていた。この概念は、自慰などの話題のように恥やスティグマが関係する内容よりも話しやすいと感じられることが多かった。しかし、「自己愛」が何を意味するのかについては多様な見解があった。

保護者との関わり

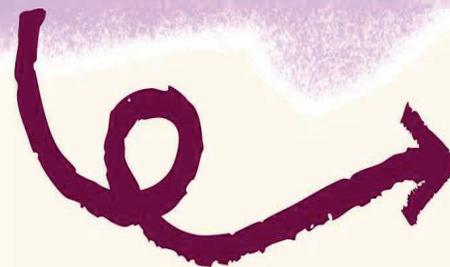
保護者は、彼らの**子ども**、特に娘に関して、暴力・貧困・婚前の妊娠などに対して**強い不安**を抱いていた。彼らの不安があらゆる機会を色づけてしまう可能性があるという認識もあった。「**親は、ユースが関係から得る幸福を理解できません**」フィリピンのユース女性調査員。ボリビアでは、**保護者が信頼できるか**についても懸念があり、ユースは性に関する話題を避ける傾向にあった。それでも、**多くの保護者がCSEを支持**していた。たとえば、ジンバブエの母親グループは、子どもにピア・ツー・ピア教育を提供する活動に関わっていたが、同時に親自身も取り残されるべきではないと強調していた。

ユース主導アプローチによる利点

快楽やポジティブさを探求する中で、**悲しみやトラウマ**に関する話も存在していたが、ユースは**喜び・希望・夢の経験**も共有していた。「ユース主導の手法は、**私たちが安全に感じさせてくれました**。ユースには**考えがあり、それを実現する力もあるのです**」ユースは互いを支え合い、コミュニティとしての**連帯感を育んだ**。だが、ユースが適切な支援職員によってサポートされることも重要であり、そのためにトラウマに配慮したリスク評価が用いられた。

私たちが学んだこと

この旅の中で、私たちは快楽を重視するアプローチを取り入れる過程で得た10の教訓がある。これらの教訓が、他の人びとが自身の方法で「喜びを受け入れる道」を見つける助けとなることを願っている。



まずは土台の構築を

01 強固なパートナーシップを育てる

The Pleasure Projectのような国際的な専門組織の支援は重要であった。この組織は多くの意見提供・実施された調査のエビデンス・技術的サポートを共有してくれた。

02 強固な基盤の構築

すべての関係者がエビデンスを理解し、文脈に適した言葉を選び、なぜ「喜びを含むアプローチ」を取るのかを説明できるようにするには、時間をかけることが重要である。課題や文脈上の問題は議論され、真剣に受け止められなければならない。

The Pleasure Principles の研修および調査演習は、関係者にとって非常に効果的で有益な体験となり、調査の目的に対する共通の言語と理解を確立する助けとなった。また、ジェンダー・人権・性的と生殖に関する権利の要素すべてに関わる内容でもあった。

たとえば、フィリピンプロジェクトチームは「Ka-talk」という独自の用語を開発した。「KA-TALK」はフィリピン語の「katok(ノックする)」と「talk(話す)」を組み合わせたものである。誰かの家に入る前にドアをノックするように、親密な話題を語り合うためには、信頼とオープンさが必要であるという考え方に基づいている。

03 十分なリソースとスケジュールを確保する

ユース主導のグローバル・試験プロジェクトを3カ国で運営するには、大量のリソース・時間・人的能力が必要である。各国事務所およびユースのアドバイザーを支えるためには、専任のプロジェクトマネジメントの時間を確保することが不可欠である。





次に、大切な人たちを 支えること

04 快楽を含む性の健康を提供する人びと への継続的な支援を確保する

人びとは異なるスピードで進み、快楽を含む性の健康を受け入れるにあたり、個人および文脈固有のさまざまな課題に直面する。本プロジェクトの期間を通じて、職員およびボランティアが自身の快楽の旅を進められるように、偏見のない価値観に基づく支援を提供することが重要である。

05 集会的な安心できる場を提供し、セルフ ケアを可能にする

ユース同士の支え合いや、快楽を追求する過程での個人的な成長体験は、プロジェクトの中で安心感をもたらし、コミュニティにおける変化に対する前向きな意識につながった。トラウマに配慮したアプローチを用いることは、被害の再体験を避けるために不可欠である。

06 ユース主導で進める

ユースリーダーが、該当分野およびプロジェクト運営の経験を活かし、プロジェクトの構築および実施において主導的な役割を担うことが重要である。

「大人たちが、私たちの選択やプロジェクトの進め方に関する決定を受け入れてくれると、とても嬉しくて安心します」

ユースグループのメンバー、女性、15歳、フィリピン

「ユースたちが道を示してくれるのです。この取り組みは、彼らにとって意味のあるものなのです」

職員、ジンバブエ

07 保護者を巻き込む

ユースは、保護者が性に関する考え方やSRHRへの姿勢や実践を形作るうえで重要な役割を果たしていると報告している。したがって、SRHRプログラムは保護者との関与を優先すべきである。

「ユースが参加できる場を見つけることも重要です。安心して話し、耳を傾けてもらい、自分たちの現実を伝え、行動に移すことができる場所が必要なのです」

ユースアドバイザー、女性、17歳、ボリビア



最後に、効果的な快楽を受容する プロジェクトをつくる

08 ユースの現実を理解し、多様な方法で 関わるために参加型手法を用いる

ユースの声を中心に据えた参加型かつ包摂的な調査アプローチを採用することが不可欠である。ユースは講義ではなく、率直な双方向の対話を求めており、日常の現実や文脈を真に理解されることを望んでいる。今後のプロジェクトには、ソーシャルメディア・新しい技術・その他創造的なツールを取り入れ、ユースたちとの関係性を深め、支援する必要がある。

「デジタルリソース・ユース向けのブログ・ポッドキャスト・SNS キャンペーンなどがあれば、対話を新鮮で正確かつ意義あるものとして持続させられると思います」

ユースグループメンバー、女性、18歳～24歳、ジンバブエ

09 CSEの「C(Comprehensive = 包括的)」を確保し、性と生殖の健康 サービスへのアクセスを保障する

本プロジェクトは、真のCSEの重要性和、ユースにやさしいサービスの必要性を確認するものであった。3カ国すべてにおいて、政策の制限が強まる中で、このニーズはより喫緊のものとなっている。

10 セックス・ポジティビティを、保護・同意・ 児童保護・トラウマ配慮型アプローチと 共に統合する

これらはすべて、CSEの重要な要素であり、ユースが「何を望み、何を望まないか」を学ぶうえで欠かせない内容である。

「性の喜びについて話したとき、多くのトラウマの話が出てきました。これは多くの女性が直面している現実です。女性たちが自分の声を取り戻し、こうした問題が取り上げられるよう訴えていくことが大切だと思います」

ユースアドバイザー、女性、17歳、ポリビア

FURTHER RESOURCES

[Embracing Pleasure - learning report](#)

[Pleasure Journey - video](#)

[Training toolkit](#)

[The Pleasure Project website](#)

[Sexual and reproductive health and
rights | Plan International](#)



Until we are all equal

the
pleasure
project.